

## グラスコーティング膜の持続性について

現在市場に提供している製品の持続性光沢保護膜の耐用年数は多少の中間メンテナンスを要しますが既に3年以上経過しても斑の発生なく保護膜の性能を維持しております。

高ARCグラスコーティングは更に保護膜の繊維網を強化したセルローズ樹脂のダブルコートとした製品で耐用年限と作業性を考慮に入れた長期持続性開発品です。

### 開発要旨及び理論

配合の主たる素材であるグラス繊維素、変性シリコン群及び溶媒（イソピルアルコール又は水）中均一分散させるシリコン系界面活性剤、シリコン弗素系コーポリマー（界面活性剤）はすべて珪素原子を構造中に有した物質です。

周知の様に同一構造物質（分子構造）は溶媒中でお互いに吸引し合う性質を有しております。配合の界面活性剤で吸引応力を減少させ特にお互いの有している珪素原子の働きで緻密なるミクロ均一分散を検討してあります。

すべて塗装表面の塗布した際に光沢、硬さ、平滑性及び長期持続性として現れます。

重合反応の中心素材はグラス繊維素で数拾億個の原子群が緻密なる繊維網の形成に寄与しております。形成された保護膜の硬度はモース硬度 6.0、光沢保有率 134.0 ですが塗装表面の前処理が完全であっての数値です。

唯塗装面に対する密着性は保護膜中の  $SiO_2$ （酸化珪素）の要素が顔料中の金属原子と架橋しているとも充分考えられ製品の改良と共に5年保証は可能と思われれます。

他社コーティング剤は輸入製品が主力で従来にエマルジョンワックス、クリーム状ワックスに樹脂系素材を樹脂専用溶剤と共に熱重合したものと考えられます。母材中には酸化される要素の脂肪酸類、ワックス系素材及び石油系溶剤が用いられ塗布仕上げ当初は初期の目的を果たしておりますが経時では斑の発生やひび割れが見られて当然です。

ARCグラスコーティングは酸化される要素の素材は全く配合して有りませんので充分期待に応え得る商品です。

当社での開発初期より現在まで出荷ベース換算で全車で約150万台は作業されていると思います。他社製品に見られるクレームは1台も発生しておりません。

（製品規格各 ARCグラスコーティング、ARCグラスコーティング、ARCグラスコーティング、ARCグラスコーティング、ARCグラスコーティング）